

折にふれ、上田の人々の顔をおもい、
上田の町をおもふことは、私の幸福なのである。

「上田の印象」(池波正太郎「二升枡の度量」ハルキ文庫)



池波正太郎生誕100年 特別企画展

池波正太郎の愛したまち上田

令和5年 3月25日(土)～6月18日(日)

開館時間 午前10時から午後6時まで ※入館は午後5時30分まで

会場 池波正太郎真田太平記館 1階企画展示室

休館日 毎週水曜日 ※ただし、4月5日、5月3日は開館
※振替休館/5月8日(月)、5月9日(火)、5月11日(木)、5月18日(木)

観覧料 一般 400円、高・大学生 260円、小・中学生 130円
※市内の高校生以下は無料 ※団体・障害者手帳所持者割引あり



池波正太郎真田太平記館

〒386-0012 長野県上田市中央3-7-3
TEL.0268-28-7100 FAX.0268-28-7101
<https://www.city.ueda.nagano.jp/site/ikenami>

池波正太郎生誕100年——

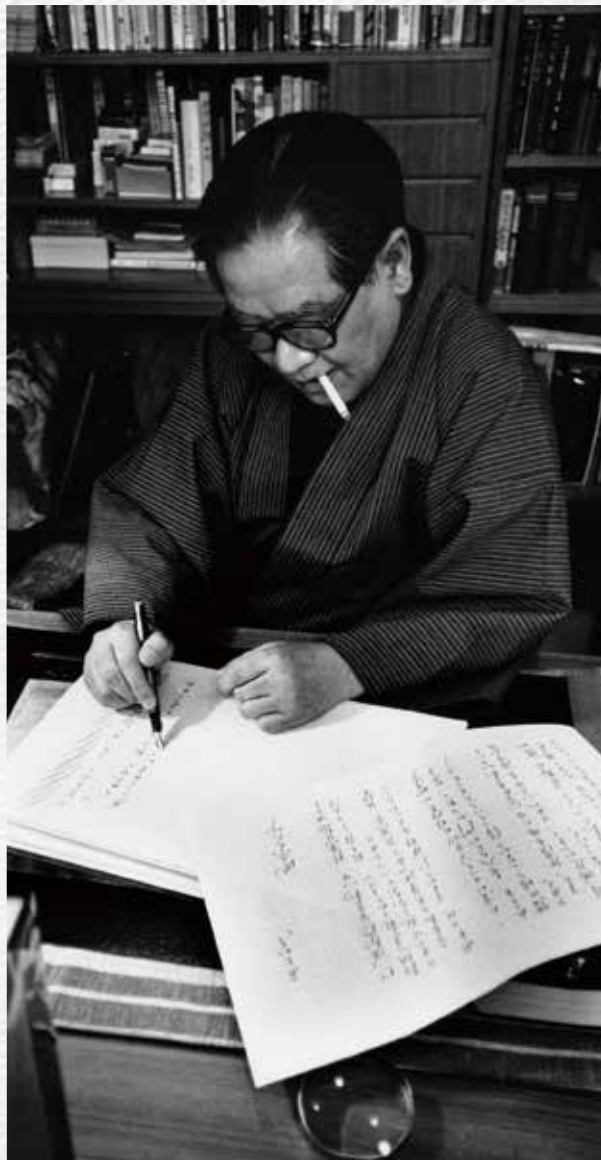
池波正太郎の ノスタルジア・東京、 上田のまちを巡る

昭和40年、テレビ番組の収録で初めて上田を訪れて以来、執筆のための取材やプライベートで、池波正太郎は何度も上田へ足を運んでいます。

上田のまちの人々、馴染みの店の味や温かなもてなしぶりを深く愛していた池波正太郎。その理由を「東京が失った昔の東京が、上田にはある」と語っていたといえます。

今展では、池波正太郎の代表作『真田太平記』や、エッセイ『むかしの味』など、上田が舞台のひとつとして登場する池波作品を軸に、池波正太郎ゆかりの店やエピソードを関連資料とともに展示します。

景観やライフスタイルが急速に様変わりする今、池波正太郎の文章を通して、改めて上田のまちを巡り、思いを馳せてみませんか。



【撮影・熊切圭介】

池波正太郎

大正12(1923)年1月25日、東京・浅草聖天町に生まれる。下谷・西町小学校卒業後、株式会社仲買店に勤め、その後海軍に入隊。復員後、23歳で下谷区役所(現・台東区)に勤務しながら戯曲を書き始め、25歳で小説家・劇作家の長谷川伸に師事。後に『鈍牛』、『檻の中』などが新国劇で上演された。昭和29(1954)年、長谷川伸の勧めもあり、小説を発表し始める。昭和35(1960)年、小説『錯乱』で第43回直木賞を受賞。池波作品の中でも『三大シリーズ』と呼ばれる『鬼平犯科帳』、『剣客商売』、『仕掛人・藤枝梅安』が絶大な人気を博し、時代小説の第一人者となる。昭和52(1977)年、吉川英治文学賞受賞。平成2(1990)年5月3日、急性白血病で永眠。享年67。令和5(2023)年、生誕100年を迎える。

『三大シリーズ』のほか、『真田太平記』に代表される『真田もの』や、『忍者もの』、『盗賊もの』などの時代小説、食や人生観に関するエッセイなどが、今なお多くの読者に愛され続けている。



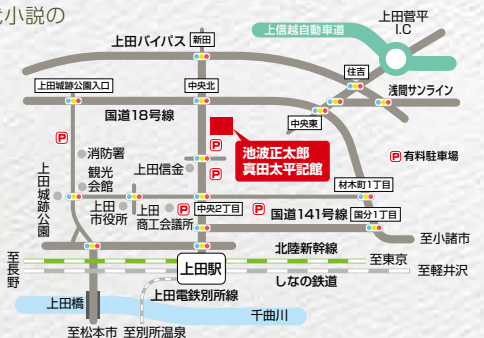
■ 手打ち蕎麦(刀屋) (上田市中央)にて(昭和60年)
益子輝之氏所蔵



■ 別所温泉・石湯
池波正太郎揮毫碑除幕式にて(昭和54年)



■ 池波正太郎直筆色紙
「六月火雲飛白雪」
当館所蔵(庄村万年筆店(上田市中央)より寄贈)



○北陸新幹線・しなの鉄道上田駅から徒歩10分
○上信越自動車道上田管平ICから車で10分

※大変申し訳ございませんが、当館には駐車場がございません。
お車で越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

特別講座

「池波正太郎と上田」

講師：益子輝之氏(民俗研究家)
日時：令和5年4月25日(火) 13時30分～
場所：池波正太郎真田太平記館1階交流サロン
定員：20名程度
参加費：400円
※詳細は当館HPをご覧ください



池波正太郎真田太平記館

〒386-0012 長野県上田市中央3-7-3
TEL.0268-28-7100 FAX.0268-28-7101
<https://www.city.ueda.nagano.jp/site/ikenami>

※ご入館の際は新型コロナウイルス感染予防対策にご協力ください。